



▲スーサイドクリフ



▲マリア観音像



▲上野市長から地獄谷の写真を受け取るホアン市長



友好都市締結に至った経緯

平成17年4月、私用でサイパン市を訪れた上野市長に、親交のあったサイパン市長が友好都市提携を申し出たのが始まりです。

サイパン市長は、歴史的、文化的に結びつきの強い日本との交流を望んでおり、特に歴史的、人的につながりのある登別市との交流を求めています。

市は、姉妹都市盟約とは異なり、経済的な負担や儀典的な制約を伴わない友好交流であることからこれを了承。このたびの締結となりました。

登別市とサイパン市との関わり

サイパンは大正3年から昭和19年まで日本の統治下にありました。

登別グランドホテルの創業者の故栗林徳一さん（株栗林商会代表取締役社長で、登別観光協会副会長の栗林和徳さんの祖父）は、サイパンやテニアン、ロタの三島を開発し、サトウキビを栽培して製糖業を興した、『南洋興発株式会社』の社長を務めていました。

また、故栗林徳一さんと（財）南洋群島協会は、サイパン島のスーサイドクリフ（通称・投身の崖）の平和記念公園に、日本全国の遺族や栗林グ

ループからの寄付により、日本軍兵士やアメリカ軍兵士、島民の戦争犠牲者の霊を慰めるために、昭和47年、『マリア観音像』を建立しました。

今後の取り組み

友好都市締結同意書には、親交関係を深めるために、サイパン市、登別市間の子どもたちの学校訪問や個人的な訪問、市民グループによる親善旅行を推進すること、文化や農業における交流を受け入れることなどが盛り込まれています。

サイパン市長は、「子どもたちに雪を見せたい」と話しており、登別市では、ふおれすと鉾山を拠点に子どもたちを受け入れ、冬期間の生活を体験してもらうことを検討しているほか、登別市から市民ツアーを組織して、サイパン市を訪問することなど、市民レベルでの交流を促進することにしています。

サイパン市との友好都市締結に関するお問い合わせは
企画グループ

☎(85) 1122

FAX(85) 1108